

厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）  
分担研究報告書

アルコール依存症の医療研修プログラムをモデルとした、オンライン研修に  
対応できる実践的な医療研修プログラムの標準化等を推進するための研究

研究分担者 稲熊 容子

**研究要旨**

オンライン研修に対応できる実践的な医療研修プログラムとしてアルコール依存症の医療研修プログラムをモデルに作成する。オンライン研修であっても対面に劣らないかつオンラインのメリットを活かせる研修となるよう、オンデマンドの事前学習教材を作成し、参加者の研修前の知識、技能レベルに合わせた事前学習を可能とする。以上により、研修前の習熟度が異なる参加者に対して、研修後に一定の到達目標を達成できるよう設計する。

**A. 研究目的**

アルコール依存症患者の背景は多様化しており、多職種が連携した柔軟な支援・対応が求められている。これまで多様な患者への対応に関する知識・技能は経験により身に付く部分が多く、また、アルコール依存症治療における患者医療者関係構築の困難さなどの心理的負担も課題となっていた。

そこで、多様なアルコール依存症患者への対応に関する知識・技能を、オンライン研修でより効果的に学修するプログラムを開発することとした。実践的な課題解決の思考・技能を学修できるよう設計する。

**B. 研究方法**

臨床場面で必要な知識・技能を設定するため、現在アルコール依存症治療を実践している方々にアンケート調査を行った。ア

ンケート結果をもとに研修プログラムの到達目標を設定した。インストラクショナルデザインの手法を用いて、研修プログラム参加者の研修前の知識・技術レベルと到達目標のギャップを想定し、研修後にギャップがなくなるような研修内容を策定した。参加者の研修前の知識・技術レベルは様々であると想定され、オンデマンドの事前学習教材(テスト、テキスト、動画)を活用することで基本的な知識を習得できるように設計した。そして、基本的な知識を習得した上でオンラインによる多職種でのグループワークに取り組めるよう構成している。

小規模トライアルを実施し、効果の検証やより良いプログラムへの改変を計画している。実装に向けたファシリテータ研修も予定している。

**C. 研究結果**

アンケート調査に基づいたより実践的な到達目標を設定できた。インストラクショナルデザインの手法を用いて、オンデマンドの事前学修教材(テスト、テキスト、動画)を作成している。作成にはアルコール依存症治療の経験が深く、知識・技能に優れた医療福祉関係者に加え、アルコール依存症当事者にも加わっていただくことで、多様な課題に対応できる実践的なものとなった。内容に関して患者家族の意見も反映している。

#### D. 考察

アルコール依存症治療を実践している方々に回答していただいたアンケート結果をもとに研修プログラムの到達目標を設定することで、より実践的な知識・技術を身につけることを目標に設定できている。

オンデマンド教材を活用することで参加者はグループワークをより効果的に学修できると考えるが、小規模トライアルを行い検証する必要がある。

#### E. 結論

アンケート調査に基づいたより実践的な到達目標を設定できた。今後、小規模トライアルを実施し、効果を検証する。

#### G. 研究発表

##### 1. 論文発表

なし。

##### 2. 学会発表

佐久間寛之、齋藤利和、大槻眞嗣、杉浦真由美、堀場文彰、稲熊容子、太田充彦、村山裕子、阿部かおり、大越拓郎

「アルコール依存症研修に対するニーズ

および依存症医療者に必要な資質に関するエキスパート調査」第34回九州アルコール関連問題学会 2023.3.24(福岡)

#### H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

##### 1. 特許取得

なし

##### 2. 実用新案登録

なし

##### 3. その他

なし